



創立60周年 「顔の見える」ボランティア活動が定着

一般社団法人東京キワニスクラブは1964年1月24日にアジア太平洋地区で初めて誕生してから、ちょうど60年になります。

昨年(2023年)は3年にわたるコロナ渦の影響を乗り越えて、子どもたちを支えるキワニス活動の復活を実感できる1年でした。

キワニスドール作成
10年で1万3千体

キワニスドールづくりも、高校・大学のほか、企業がボランティア活動として取り組む事例が広がり、この10年間(2023年9月末まで)の作成数は1万3千体を超え、病気で入院している多くの子どもたちに寄贈しました。

キワニス奨学金は2016年にスタートして8年で、2024年春に卒業する2人を含め8人の奨学生が社会人として自立しました。

こうした活動は、子ども食堂や寺子屋などとともに活動してくださる地域のNPOの方々、ドールづくりを支える学校・企業の皆さん、そして奨学生に共に寄り添ってくださる児童養護施設のスタッフの協力があって続けていくことが出来ました。心より感謝申し上げます。

東京クラブの最近の10年を振り返ると、「子どもたちのために」という活動が活発になってきました。

50周年の時点で、すでにキワニスドールづくりには取り組んでいましたが、社会奉仕活動の中心は、海外における妊産婦・新生児の破傷風撲滅(エリミネイト・プロジェクト)に代表される対外的な「寄付活動」でした。

50周年を契機に、「自分たちで手を動かし、汗をかいて、相手の顔が見えるボランティア活動が出来ないか」という機運が高まり、「子ども食堂」「寺子屋」や児童養護施設出身の学生に対する「キワニス奨学金」など、クラブ独自の活動が次々に誕生しました。

子ども食堂はコロナによる休止期間はあったものの、再び100人以上の子どもが参加する催しとして復活、寺子屋はスタートして2023年末までの6年間の開催回数が144回を数えます。

子ども食堂はコロナによる休止期間はあったものの、再び100人以上の子どもが参加する催しとして復活、寺子屋はスタートして2023年末までの6年間の開催回数が144回を数えます。

寺子屋は6年で144回開催



新会長挨拶 「子どもに希望を、大人に元気を」 鈴木健司

お陰様で創立60周年の節目の年を迎えることができました。私たちは病気の子どもたちのためのキワニスドールづくりに加えて、この10年間、子ども食堂や寺子屋、サンシャインシティでの春のイベントを次々に始めました。児童養護施設出身の学生を対象とした奨学金支給にも取り組んできました。

「世界の子どもたちのために」という目標に向かって、これを続けていくことはキワニスの使命です。そのためにはクラブの古い体質を思い切って変えていく。「続ける使命と、変える勇気」が必要です。

会員が取り組むボランティア活動は、一方的な支援や奉仕ではありません。活動を通じて子どもたちに希望を与えることで、私たちも子どもたちから元気を受け取ることが出来る。そういう双方向の関係だと思っています。子ども世代と、大人世代の「共生」の実現に向かって、歩み続けていく1年にしたいと考えています。(2023.11.24 就任)



キワニスドール・フェスティバル 2023

日本地区と共催、オンラインで全国から参加

2023.5.27

第14回キワニスドールフェスティバルは3年連続してオンライン方式で実施。国際キワニス日本地区との共催により全国のキワニスクラブ会員も多数加わり、参加者は100名を超えました。学校など作り手側の発表や、病院に入院中の子どもと接しているスタッフによるドール活用事例の報告に耳を傾けました。地方のクラブからは寄贈先が見つからないため在庫を抱えているという発言があり、これを聞いた出演者がドールを活用したい病院等を紹介、全国で800体ものドールの寄贈が実現しました。

田園調布学園家庭部

ボランティア活動の一つとして長年、キワニスドールづくりを進めています。型紙通りミシンで縫うところから綿詰めまで「人形を抱っこした感触を想像しながら集中して作っている」。生徒の一人は「私たちの手仕事子どもたちのお役に立っていることを誇りに思う」と話しています。ドールの存在を広く知ってもらうため、文化祭などで校内に広めているほか、外部には「SNSを活用した発信を」と提案しました。



(石村博美先生と生徒)

自由学園リビングアカデミー

生涯教育を目的に8年前に始まったシニアスクールで、学生が自主サークルとして「キワニスドールを作る会」を立ち上げました。60～70歳代を中心に25人が月1回集まり、ミシガけの得意な人、綿詰めならできるという人、それぞれが得意な作業に特化する分業体制で作っています。参加者は「仕事をリタイアし、この年齢になっても社会貢献できることは幸せ」「自分たちには時間がたっぷりある、その時間を病気の子どものために役立てられてよかった」とやがいがいを感じて、続けています。(リーダー内田俊子さん)



聖隷三方原病院

病院での保育士の役割は、検査や処置の説明や付き添い、遊びの提供、学習支援などです。「ドールを使って手術や点滴などの疑似体験をしながら、大丈夫だよ、痛くないよと話してあげると、安心する」「子どもたちもドールで手術ごっこをしている」と病院での様子を説明。キワニスドールは「子どもたちのがんばろうとする力を引き出してくれる」。ボランティアの手作りだと知ると「親はていねいな仕上がりに驚き、子どもたちもいっそう大事にしてくれる」と紹介しました。



(保育士の山中あけみさん)

日本ホスピタル・プレイ・スペシャリスト協会 (HPS)

HPSは英国で誕生、小児医療チームの一員として、遊びを通じて病気の子どもたちを支援、日本でも227人が活躍中。キワニスドールはハイリスクの子どもに安心感を与える有効なツール。病気の子どもに限らず、親が癌で亡くなった子ども、兄弟が医療的ケアを必要とするケースも対象になります。「ドールは自分の分身。言葉で伝えることが難しくても自分の気持ちを表現するのに役立つ」「ドールを持っている他の子どもと遊びを発展させる」「虐待を受けた子どもにもドールは有効」「ヒーローが一緒だと怖くない」とたくさんのエピソードを披露。「キワニスドールを分身として愛着を持つことは、自分と向き合い、認め、理解することにつながる」「その経験は大人になってからも自信となり受け継がれる」と評価しています。子どもたちに検査や治療を説明するため、検査機器やストレッチャーを木工でつくり、特別に許可を得て、それに合わせて小さなドールをつくっています。(写真はミニドールを使った検査機器セット)



(NPO法人の同協会代表、静岡県立大学短期大学部准教授の松平千佳さん)

青少年教育賞・社会公益賞

表彰式

2023.10.13

第38回青少年教育賞の最優秀賞は「学生NGO ALPHA」。東京外語大学の学生中心の団体で、フィリピンで小学校の教室建設、オリジナル授業など教育支援をしています。優秀賞は子ども向け環境教育の「環境ロドリゲス」(早稲田大学)、ブラジルで学童健診などを実施する「国際医学研究会(I MA)」(慶応大学医学部)の両団体に。

57回社会公益賞は不登校の子ども達に居場所を提供している任意団体「なゆたふらっと」(写真は鈴木秀和代表)に贈られました。



海外からのメッセージ

キワニスドール発祥の地であるオーストラリアのほか、アメリカ、ヨーロッパからもメッセージが届きました。ベルギー・ルクセンブルグ地区では高さ2メートルを超えるドールを作成、アーティストが色をつけ、街や店舗に展示し、小児科チームの知名度やモチベーション向上、資金調達のためのPRに活用しています。



「夏子ども食堂」も復活 2023.8.5

夏の「子ども食堂」は春と同じ杉並の東京立正中学・高校で開催。小中学生、未就学児、保護者あわせて137名が集まりました。学士会館精養軒の前料理長大坂さんもかけつけ、子どもたちはカレーライスなどをおいしく食べました。遊びコーナー会場では、読み聞かせ、缶バッジ、手作りうちわ、おり紙、バルーンアートなどを楽しみました。キワニス関係の19名を含め総勢70名のスタッフがボランティアとして参加しました。



宿題はかどる夏休みの寺子屋 2023.7.24~25

妙法寺で恒例の「夏休み寺子屋」は両日とも44人が夏休みの宿題を持って参加しました。6年生は「解らないところを友達に聞けるのがいい」「家でやるよりも、宿題がはかどる」「友だちとどこまで進んだか話しあえるので安心する」と寺子屋のよさを実感しているようです。楽しみはスタッフ手作りの昼食。1日目ジャージャー麺、2日目冷しゃぶうどん。おかわり続出でした。



秋には花を植える活動も

11月11日の寺子屋では勉強したあと、「花を植えよう、笑顔の寺子屋」のイベントに参加。プランターに、千日紅などの花を植え、普段やらない土いじりを楽しみました。



「考学舎N.K.キークラブ」誕生

東京に新しく中高校生版のキワニス組織「N.K考学舎キークラブ」が誕生し、7月29日に認証状授与式が開かれました。考学舎は都内2か所に教室を持つ、フリースクールと学習塾の中間的な私塾で、小1~浪人生が「自立できる大人」をめざして学んでいます。キークラブには、中3~高3の12名が参加し、ボランティア活動などに取り組んでいます。認証式も生徒が自主的に考えて運営し、中高校生世代のキワニス活動に相応しい船出となりました。



キワニス奨学金 支給人数拡大へ

キワニス奨学金の制度は、公的奨学金の充実などの環境変化を考慮して、これまで1人40万円だった年間支給額を、20万円に減額する代わりに、同時に支給できる人数を従来の最大4人から、段階的に最大8人まで広げることにしました。

2024年4月からは5人に支給します。3月に奨学生2人が卒業、新たに大学や専門学校に進学する3人が支給対象に加わります。募集対象となっている8か所の施設ごとに窓口となる会員を決めて、施設側との連携を深め、奨学生とそれぞれに合った方法で寄り添い、サポートする体制を確立しつつあります。

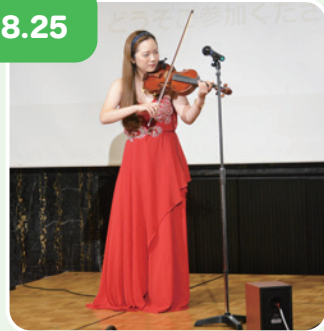
チャリティー・コンサート 2023.7.31

「真夏の夜の夢オペラ」と題して汐留ホールで開催、東京芸大卒の4人のオペラ歌手がヴェルディやロッシェニなどの名曲を歌いました。会員29名、会員外68名が参加し、寄付集めにも貢献しました。終了後は希望者が中華料理店で懇親を深めました。



ファミリーデー 2023.8.25

4年ぶりに学士会館で開催、会員31名、会員外9名が参加しました。創立初期のキワニス会員の孫にあたる相知明日香(おうちあすか)さんのヴァイオリン演奏のほか、福引大会、カメラ部による写真の展示などを楽しみました。



日本地区金沢大会 2023.9.8

国際キワニス日本地区の年次総会が4年ぶりに金沢で開催され、吉國眞一氏に代わって、宮崎修二氏が新ガバナーに就任しました。各クラブ独自の奉仕活動を競う看板プロジェクト・コンテストで、東京クラブの「寺子屋in妙法寺」が「金賞」として表彰されました。



ワインツアー 2023.10.5

会員有志のバスツアー。会員の友人・知人も参加。甲州勝沼のマンズワインの工場を見学し、ワインのテイस्टینگや、ワインに合うランチを楽しみ、親睦の機会として有意義でした。



ゴルフコンペ 2023.11.16

恒例の秋のチャリティー・コンペは狭山ゴルフクラブで、会員11名、会員外4名が参加。このほか2023年夏から会員有志がゴルフ同好会を結成し、グリーン上で懇親を深めています。



金曜昼の例会

第1・3・5週の金曜に学士会館で例会を開催、ランチをとりながら識者の卓話を聞き、会員相互の交流を深めています。最近の卓話の講師と演題は次の通り。

- 河合祐子氏 (ジャパン・デジタル・デザイン株式会社CEO)
デジタル時代に考えること
- 山本光昭氏 (社会保険診療報酬支払基金理事)
健康よもやま話～新型コロナと日本酒の飲み会構造改革について～
- 塩沢文朗氏 (NPO法人国際環境経済研究所主任研究員)
水素、アンモニア:「カーボンニュートラル」の実現に向けて
- 坂本聡会員 (考学舎代表取締役)
まちの寺子屋から見る、子ども達と大人達～イマ必要な支援、学び…
- 田中靖之氏 (警察庁特殊詐欺対策室長)
最近の特殊詐欺の実態と対策等について
- 東大作氏 (上智大学グローバル教育センター教授)
ウクライナ戦争をどう終わらせるのか 和平調停の限界と可能性
- 佐藤信雄氏 (ハーバード・ビジネス・スクール日本リサーチセンター長)
ハーバード・ビジネス・スクールにおけるMBA教育の変遷
- 谷岡清氏 (美実評論家 NPO法人美術教育支援協会理事長)
浮世絵でたどる江戸の美女*美味*美食
- 石塚茂樹氏 (ソニーグループ株式会社前代表執行役副会長)
ソニーエレクトロニクスの事業変革
～環境変化への対応力、先んじて自らを変えられるのか?～
- 折居徳正氏 (一般財団法人バスウェイブ・ジャパン代表理事)
難民・避難民を人財として受け入れる
- 宇都宮浄人氏 (関西大学経済学部教授)
「交通まちづくり」の新展開～コンパクトシティ・MaaS・総合的政策
- 岩井宣子氏 (専修大学名誉教授)
犯罪現象の動向
- 藤沢一就会員 (日本棋院プロ棋士八段)
子どもの個性を伸ばすAI時代の教育法ー世界で戦えるプロを育てるために
- 宮崎修二会員 (国際キワニス日本地区ガバナー)
60年目のキワニス 次の世代に向けて JAPAN KIWANIS 3.0

国際懇話会

第97回 2023.6.8

- 小島章伸氏 (名誉会員)
「その時歴史が動いた
～日中関係の語り部として」

第98回 2023.10.19

- 大門小百合氏 (ジャーナリスト
元ジャパンタイムズ執行役員・編集局長)
「日本の報道と世界の報道
～ジャパンタイムズの視点から」

新入会員紹介

- ・三浦孝行 (みうら たかゆぎ)
入会日 2023年 7月 7日
- ・三浦真 (みうら まこと)
入会日 2023年 7月 7日
- ・石川裕美 (いしかわ ひろみ)
入会日 2023年 9月 1日
- ・洲上陽子 (ふちがみ ようこ)
入会日 2023年11月10日

物故会員

- ・永井弓彦 名誉会員
1979年3月16日入会
2023年11月19日にご逝去されました。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。